

2026年度事業計画案

1. 事業計画概要

当協会は、鋼管杭・鋼管矢板・鋼矢板に関する設計・施工・製品分野の技術的知見を基盤として、基準整備および技術普及を通じ、安心・安全で経済的な社会資本整備に資する活動を継続してきた。これらの取組成果を踏まえ、今後は技術委員会活動における選択と集中を一層進め、①次期道路橋示方書・同解説改定への対応、②最新の技術データに基づく基準化の推進、③施工および資格制度等の基盤整備の3点を重点方針として取り組みを推進する。2026年度は、これまでに構築してきたタスクフォース型技術小委員会制および施工委員会を軸とする活動体制のもと、上記方針に基づき、技術的成果を基準や実務へ具体的に反映していく実行段階に重点を置いた活動を展開する。

道路分野では、被災後の構造物の継続利用可否判断や維持・補修を見据えた設計思想の整理を重視し、限界状態の定義および塑性化後の性能評価手法の確立に向けて検討を進める。鋼管矢板基礎については、大型化・大深度化に伴い施工条件が厳しくなる中、継手処理の省略や脚付き型鋼管矢板基礎など、施工性改善が可能な構造の位置付けと設計手法の確立に引き続き取り組む。

建築分野では、鋼管杭を対象とした二次設計法について、学会規準への反映を着実に進めるとともに、その後の制度化を見据えた技術的基盤の整備を推進する。

鋼矢板分野では、河川堤防の強化工法として提案してきた鋼矢板二重壁構造について、現地試験工事で得られるデータの蓄積・分析を継続し、維持管理手法の確立に向けた計測・モニタリング技術の高度化を図る。これらの成果を踏まえ、国土交通省による技術評価の確実な取得とオーソライズ化に向けた取り組みを推進する。

施工分野では、施工委員会を中心に施工の合理化および高度化を主要テーマとし、特に打込み杭の施工管理高度化については、施工事前検討の精度向上および施工管理手法の体系化を図る。また、資格委員会との連携を強化し、人材育成と施工技術の普及を一体的に推進する。

資格制度については、2026年度より開始される統合「基礎施工士」資格制度の円滑な運営を図るとともに、育成講習およびフォロー講習等の各種講習会を着実に実施し、施工管理技術者の育成と技術水準の維持・向上を図る。

以上の方針のもと、2026年度は、これまでに蓄積してきた技術的成果を基準化および実務へと結び付けていく重要な年度と位置付け、協会活動の質的向上と社会的価値の一層の発揮を目指していく。

2. 理事会、社員総会の開催・運営

- (1) 理事会 3～4回程度
- (2) 社員総会 1回（定時社員総会）
- (3) 技術総括委員会 毎月1回程度
- (4) 拡大技術総括委員会 隔月1回程度

3. 広報・普及活動

3-1 文書の発行および広報活動

- (1) 機関誌「明日を築く94号」発刊

3-2 論文・報文の発表

- (1) 土木学会
- (2) 日本建築学会

3-3 協会ホームページ改定

- (1) 技術資料等の閲覧環境の更なる整備、公開内容の更新推進
- (2) ダウンロード資料・コンテンツの充実化

4. 委員会活動計画

以下の研究および技術活動を予定している。

委員会名	活動項目	目的・実施事項・成果見込み
施工委員会	1. 施工管理要領の整備、更新 （継続テーマ） 2. JASPP 版資料の整備、更新 （継続テーマ） 3. 各種公的規準への織込み （継続テーマ） 4. 施工資格制度検討 （継続テーマ） 5. 横断的な個別テーマの探索 （継続および新規テーマ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打込み杭小委員会：公的機関との打止め管理高度化に関する共同研究の開始 ・ 鋼管杭施工管理に係る育成講習体制の立上げ ・ 「鋼管杭－その設計と施工－」施工編の公開 ・ 3 協会の資格統合に伴う初年度の円滑な運営推進 → 資格委員会との協働による検討・調整 ・ (仮称) JASPP-DX に向けた新技術（ICT、BIM/CIM、IoT 等）に関する基本方針等の検討 → 施工会員会社の取組事例収集と紹介、他杭種を含めたクラウド・ツール等の動向把握 ・ 施工出来形精度等、施工に関する調査・検討 → まずは実プロジェクトのデータ収集に着手 ・ 近接施工に関する情報整理および JASPP 資料としての取りまとめ ・ 鋼管杭の現場横継ぎに関する技術資料の作成 ・ 上記事項および関連トピックスについて、施工セミナーのテーマとしても活用
鋼管杭技術委員会 （土木基礎小委員会）	道示改定対応 1. 次期道示改定対応	1. 次期道示改定対応 ① 目的 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼管杭基礎の限界状態を再定義し、鋼管杭基礎の降伏後挙動を十分に活用できる合理的な設計の採用を促進する環境の整備 ② 実施事項

	<p>2. R 7 道示改定(関連図書)対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的機関との方針共有/状況報告 ・ 塑性化許容設計の道示における位置付け整理 ・ 限界状態に関する既存データの追加整理(組杭) ・ 塑性化許容設計に係る具体的設計モデル案の作成 ・ 被災後の損傷調査および復旧に関する技術動向の調査 <p>③成果見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塑性化許容設計の到達目標(設計モデルおよび道示における位置付け)の明確化 ・ 関連する技術課題の具体化 ・ 公的機関との認識共有および協働による取り組み推進体制の構築 <p>2. R 7 道示改定(関連図書)対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耐久性評価便覧および設計の手引き(仮)に係る審議フォロー
<p>鋼管杭技術委員会 (鋼管矢板基礎小委員会)</p>	<p>1. 脚付き鋼管矢板基礎の設計方法の整理</p> <p>2. 施工性改善</p>	<p>1. 脚付き鋼管矢板基礎の設計方法の整理</p> <p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工性の改善に寄与する脚付き鋼管矢板基礎の設計方法の確立 <p>②実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公的機関との対話・協議を強化による、具体的な課題および対策の明確化 ・ 模型実験による脚付き鋼管矢板基礎の設計モデルの検証 <p>③成果見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塑性化を考慮しない(降伏しない)範囲における設計方法の確立 ・ 塑性を考慮(降伏以降を考慮)した設計方法の確立に向けた技術課題の具体化 <p>2. 施工性改善</p> <p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼管矢板基礎の施工性の向上 <p>②実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継手処理に係る業者との協議の実施 <p>③成果見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継手管処理の施工管理要領の作成(鋼管矢板基礎設計施工便覧を補足する資料)
<p>鋼管杭技術委員会 (建築基礎小委員会)</p>	<p>建築2次設計の具現化</p> <p>1. 杭頭接合部, 杭体(ずれ止めのないコンクリート充填部, 中空部, CFT杭)の耐力と変形性能</p>	<p>1. 杭頭接合部・杭体</p> <p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公的基準(告示、「建築物の構造関係技術基準解説書」)等への反映 <p>②実施事項</p>

	2. 群杭の水平抵抗（群杭係数算定法）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会「基礎部材の強度と変形性能」改定版第一稿の作成 ③成果見込み ・日本建築学会「基礎部材の強度と変形性能」改定版第一稿への反映 2. 群杭係数の算定法 ①目的 ・群杭係数算定法の一般化および鋼管杭の適用性向上 ②実施事項 ・日本建築学会「建築基礎構造設計指針」改定作業（担当者）のフォローアップ ③成果見込み ・日本建築学会「建築基礎構造設計指針」への反映（発刊時期：2030年予定）
鋼管杭技術委員会 （港湾・防食小委員会）	1. 重防食被覆の長期耐久性	<ul style="list-style-type: none"> 1. 重防食被覆の長期耐久性 ①目的 ・重防食塗装の耐久性の実証 ②実施項目 ・長期暴露40年目の観測成果の港空研資料化（分担執筆） ・長期暴露42年目の観測（目視観察）
鋼矢板技術委員会 （河川堤防小委員会）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国交省「河川堤防の強化に関する技術検討会」に係る技術公募への対応 2. 鋼矢板技術普及・定着に向けた技術基盤整備 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国交省「河川堤防の強化に関する技術検討会」に係る技術公募への対応 ①目的 ・越水に対して粘り強い河川堤防強化技術としての鋼矢板二重壁工法の公的オーソライズ化 ②実施事項 ・実大規模施工試験での計測・モニタリングの実施 ・国交省・土研等との技術評価に関する協議 ③ 成果見込み： ・変状促進試験の実施による技術評価の取得 2. 鋼矢板技術普及・定着に向けた技術基盤整備 ・建設コンサルタント協会における技術講習会への対応
製品技術委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2025年度活動報告まとめ 2. 規格・技術資料の改訂推進 3. 新規課題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2025年度活動報告書の作成 2. 2029年版JIS改正内容に関する協議 ・改正項目の洗い出し ・改正原稿案の検討・作成 3. 新規課題事項への対応に関する協議
広報委員会	1. 「明日を築く」発刊	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「明日を築く第94号」発刊 ・紙面構成、寄稿・取材プロジェクト等の候補案の策定 ・執筆依頼、原稿作成、印刷、製本、郵送等の

	2. ホームページ定期更新	<p>取りまとめ（2026年度末発刊予定）</p> <p>2. ホームページの定期更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会からのお知らせや技術資料等のアップロードなど、公開内容の更新の推進 ・必要に応じた追加コンテンツの新規作成および資料の充実化等の推進
赤本編集WG	1. 「鋼管杭－その設計と施工－」の改訂	<p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術資料の完成 <p>②実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載項目の選定および独自資料の作成、ならびに相手方との調整 <p>③成果見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4編設計、5編施工編のWeb公開（2026年度上期予定）
資格委員会	<p>1. 「新基礎施工士」資格の運営</p> <p>2. 基礎施工士受験者の育成、フォロー活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・統合した新資格「基礎施工士」の立上げおよび3協会合同による更新講習会・検定試験の実施 ・育成講習会の実施（施工委員会主催による実務運営体制の構築） ・フォロー講習会の実施 ・講習会資料の見直し着手

5. その他の活動

- ・施工者向け参考図書「鋼管杭－施工と施工管理－」の販売